

諏訪市美術館が作品と一緒に邪魔する「アートを身近に！諏訪市美術館が出張します」を諏訪市立四賀小学校で開催しました。今回は一味違う鑑賞でしたよ！報告レポートをお届けします。

## アートを身近に！ 諏訪市美術館が出張します @四賀小学校

2017.1.17



四賀小体育館がモチーフの《トラウマバック》  
児童の皆さんのほとんどが四賀小の体育館と  
気づいていました！



《幸せ が、あふれだす》  
「幸せ」と「が、」の間の「 」が重要です！



《懐中電灯の光を追って、一体どこまでいけるのか》  
小学校から初めて子どもたちが外に出た作品です。

「アートを身近に！諏訪市美術館が出張します」(以降、「アートを身近に！」)は、通常、諏訪市美術館に収蔵されている作品のなかから、持ち出し可能な作品を小中学校に持ち出して鑑賞してもらっています。しかし、今回は、収蔵作品ではなく、茅野市在住の画家・橋口優さんにご協力いただき、橋口さんの作品を3点鑑賞しました。橋口さんはなんと四賀小学校の卒業生。茅野市に生まれましたが、幼いころに諏訪市に移り、四賀小学校、諏訪南中学校、諏訪清陵高校を卒業されています。高校卒業後は、多摩美術大学に進学され、油彩画を学ばれました。現在は油彩画にとどまらず、イラスト、羊毛フェルトによる造形など、多様な表現を展開されています。

今回は、縁あって四賀小学校に橋口さんをご紹介したところ、作品鑑賞を依頼いただき、1月17日に6年生の2クラスを対象に実施という運びとなりました。

橋口さんは、初期の作品に「学校シリーズ」という作品群があります。この作品群は四賀小学校とそこでの記憶がモチーフになっており、今回はこの学校シリーズから作品を選んでいただき、鑑賞しました。

教室や体育館の風景が描かれている作品もありますが、どこか不穏な雰囲気も感じさせる、独特な作品です。児童の皆さんには、一人ひとりじっくり見てもらった後に、それぞれの作品に対して感想を発表してもらいました。その後、橋口さんに1点ずつ作品の解説をしていただきました。

四賀小学校が絵画制作を志す原点である、という橋口さんのお話を聞いて、児童の皆さんも、何か感じるものがあったのではないのでしょうか。「特別版「アートを身近に！」は、作者という存在をととても近くに感じられる良い機会でした。橋口さん、ありがとうございました。